

**10月10日『目の愛護デー』にむけて、養護教諭900名のアンケート結果を発表
正しい知識を持てば、児童・生徒のコンタクトレンズ使用に8割が賛成**

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケアカンパニー(本社:東京都千代田区、代表取締役 プレジデント:デイビッド・R・スミス)は、10月10日の「目の愛護デー」を前に、若年層のコンタクトレンズ装用について、学校で保健指導を行っている養護教諭を対象としたアンケート結果を発表いたします。

今回のアンケート結果では、コンタクトレンズ装用の低年齢化や、トラブルの原因など、学校保健に携わる養護教諭が直面しているコンタクトレンズに関わる実態が明らかになりました。

このような現状をふまえ、ジョンソン・エンド・ジョンソンでは、中学生・高校生とその保護者に向けて、眼の健康やコンタクトレンズに関する正しい知識を持っていただくため、日本学校保健会及び日本眼科医会 常任理事 宇津見義一先生の監修による啓発資料『中学生・高校生のためのコンタクトレンズガイド』を中学校・高校を通じて無料配布しています。

【養護教諭へのアンケート結果】

■ 学校保健の現場で感じられているコンタクトレンズ装用の“低年齢化”【グラフ1/コメント1】

学校保健の現場で日々、児童・生徒と接している養護教諭の 83.6%が「コンタクトレンズ装用の低年齢化が進んでいる」と感じていることが分かりました。年代別にみると小学校では92.5%、中学校では89.6%が“低年齢化”が進んでいると感じており、年代が若いほどその傾向を強く感じています。

「小学生高学年にも視力0.3未満と視力低下の進んでいる子が多くなっている」、「親の世代もコンタクトレンズを使用しているため、子供の使用にも抵抗が少ないようだ」などのコメントもあり、コンタクトレンズ装用の低年齢化の背景には、若年層の視力低下傾向や、親世代のコンタクトレンズに対する意識の変化なども影響しているようです。

コンタクトレンズ装用の理由として、「コンタクトレンズを装用している女子は“メガネの見た目”にこだわっている」が65.3%、「コンタクトレンズを装用している男子は“スポーツ”が主な理由で装用している」が54.3%となっており、若年層のコンタクトレンズ装用において、“見た目”と“スポーツ”は大きなきっかけとなっていることが伺えます。特に、小学生では“メガネの見た目”を理由とする割合が、81.3%と高くなっています。

■ 年代によって異なるコンタクトレンズトラブルの原因。小学生は“正しい知識不足”、高校生は“不十分なケア・誤った使い方”【グラフ2/コメント2】

コンタクトレンズのトラブルの原因がどのような点にあると思うかを聞いたところ、84.8%が「コンタクトレンズについての正しい知識が不足」と答えています。その他、「交換期間・時間を超えた装用」(55.7%)、「2週間使い捨てレンズなどのケアが不十分」(54.6%)、「眼科での定期検査を受けていない」(51.3%)など、眼の健康のために重要なコンタクトレンズの正しい使い方について守られていないという回答が半数を超える結果となりました。

年代別にみると、小学校では「正しい知識不足」が96.2%と非常に高く、中学校・高校になるにつれてコンタクトレンズの正しい使い方に関連する項目の割合が高まり、約6割を超えています。

養護教諭のコメントでは、メガネを持っていない、もしくは持っていて度が合っていないかったり、レンズケースを持ち歩いていない生徒・児童も少なくないとの声も聞かれました。また、高校の養護教諭からは、カラーコンタクトレンズのファッション感覚での安易な装用や眼科医の検査・処方無しのインターネットなどでのコンタクトレンズ購入に対する危機感やトラブルの例が多く寄せられました。

■ “正しい知識”を持てば、コンタクトレンズ装用に約8割が賛成【グラフ3/コメント3】

養護教諭のほとんど(97.9%)が「最初のコンタクトレンズ装用時に“正しい知識”を持つことが重要だ」と考えており、80.6%は「“正しい知識”を持てば、コンタクトレンズを使うことには賛成」と答えています。

様々な事情をかかえる若年層のコンタクトレンズ装用者と日々向き合っている学校保健の現場でも、コンタクトレンズを装用し始める際にしっかりと正しい知識を持ち理解することや、定期検査を受けて繰り返し確認していくことの重要性が注目されており、児童・生徒の眼の健康を守るために、正しいコンタクトレンズの使い方などの指導・啓発に取り組む養護教諭の姿が浮かび上がりました。

また、「保護者も安価なものを求め、検診にも連れて行かないケースが多い」、「保護者が正しい知識を持っているのか不安もある」など、児童・生徒だけでなく保護者も正しい知識や意識を持つことの必要性を訴えるコメントも多くありました。

「中学生・高校生のためのコンタクトレンズガイド」を監修された、社団法人 日本眼科医会 常任理事 宇津見義一先生は、今回の結果を踏まえ以下のようにコメントされています。

成長期の子どもは、近視が進みやすく、視力低下も起こりやすくなる時期です。中高生の2人に1人が、「裸眼視力 1.0 未満」という統計も出ています*。視力が低下すると、学業やスポーツに支障をきたす場合もあります。視力低下が低下してきたら、適切な視力補正をおこなうことが必要です。

昨今、コンタクトレンズの装用開始年齢の低年齢化が進んでおり、10代の装用者人口は200万人を超えています。小学生でコンタクトレンズ装用を希望するケースも少なくありません。

コンタクトレンズは、メガネと異なり視野を遮らず、スポーツにも便利であったり、顔の印象が変わらないなどメリットもありますが、その一方、不適切な取り扱いなどにより眼障害を引き起こすリスクもあります。特に、若年層においては不適切なケアなどによるトラブルが懸念されています。

児童・生徒にコンタクトレンズ装用をさせないというのは現実的には難しく、実際は個々の事情や、成熟度、理解度などに合わせて処方されているのが現状です。

ソフトコンタクトレンズは角膜にキズができて包帯効果にてキズを覆ってしまいます。病状が軽度では自覚症状が少ないためにレンズを装用してしまい重症化する場合があります。ハードコンタクトレンズはキズができた場合には、軽度の病状でも痛いために装用ができません。安全性を考えるとハードコンタクトレンズをお勧めしますが、ハードレンズは異物感があり、スポーツ時にはずれやすい欠点があります。ソフトレンズは正しく使用することで安全な装用が可能となりますが、若年層には、ケアが不要な“1日使い捨てタイプ”を推奨します。

コンタクトレンズは大切な眼に直接つけて使用するものですので、眼科医の検査・処方を受けて、適切な使用方法を知ることが大切です。特に若年層では、本人だけでなく保護者も正しい知識を持ち、コンタクトレンズ装用を管理・指導していくことも重要になってきます。

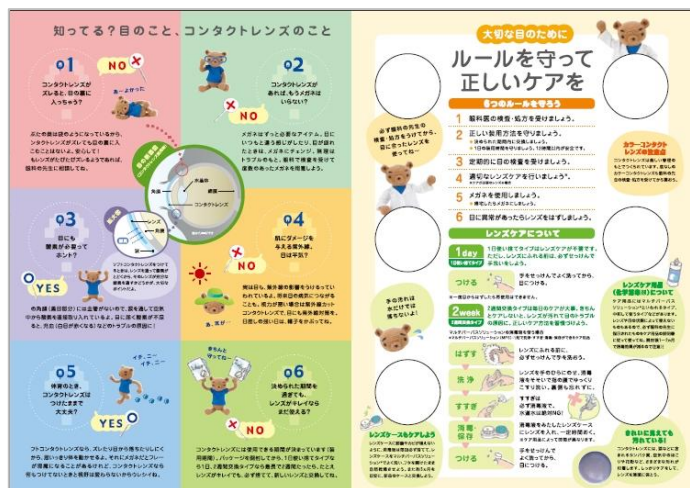
コンタクトレンズ装用にあたっては、“眼科医の検査・処方を受ける”、“決められた装用方法(装用時間、装用期間)を守る”、“定期検査を受ける”、“適切なレンズケアをおこなう”など、ルールを守って正しく使いましょう。

児童・生徒の眼の健康を守るために、コンタクトレンズの正しい使用について、学校で、そして家庭でも積極的な指導や啓発活動が重要だと感じています。

*文部科学省 平成19年度 学校保健統計調査より。両眼のうち低い方の視力。小数点以下第2位を四捨五入。

■「中学生・高校生のためのコンタクトレンズガイド」概要

- 対象 : 中学生、高校生、その保護者
※中学生・高校生向けのページと、保護者向けの解説ページがあります
- 内容 : ・コンタクトレンズクイズ
・正しいケアでレンズを清潔に
・保護者の方へ 適切な視力補正について考えてみませんか？
・ソフトコンタクトレンズ Q&A
- 監修 : 財団法人 日本学校保健会、社団法人 日本眼科医会 常任理事 宇津見義一先生
- 配布部数 : 20 万部(希望部数が 20 万部に達した時点で締め切らせていただきます)
- 受付期間 : 2011 年 10 月 31 日(月)まで
※全国の中学校・高校の養護教諭を通して配布しています。



<ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケア カンパニーについて>

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケア カンパニーは、1991 年に世界初の使い捨てコンタクトレンズ「アキュビュー」を日本に導入して以来、常に使い捨てコンタクトレンズ市場をリードし続けてきました。現在、様々なユーザーのニーズにお応えするため、12 種類のタイプの異なる使い捨てコンタクトレンズをラインアップしています。

—お問い合わせ先—

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケア カンパニー
パブリック リレーションズ 松本、眞野、大林
TEL:03-4411-6356 FAX:03-4411-7186

広報代行 株式会社プラップジャパン 渡部、大木、山本
TEL:03-3486-7355 FAX:03-3486-7507

©J&J KK 2011

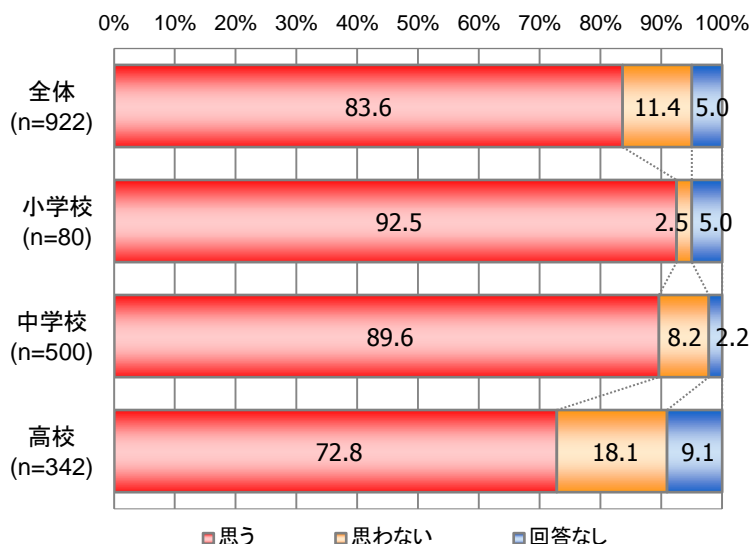
【参考資料】 養護教諭へのアンケート結果

■調査概要

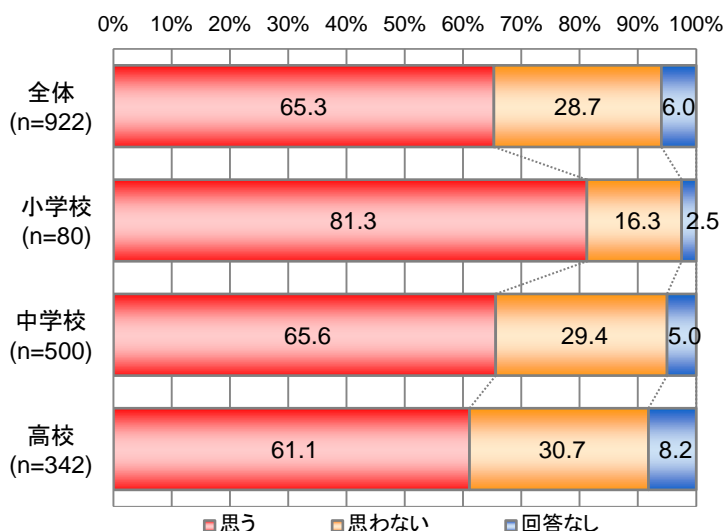
回答方法	「中学生・高校生のためのコンタクトレンズガイド」申込時の記入式による調査
回答者数	922名 《内訳》養護教諭 918名、保健主事 3名、看護師 1名
回答者の学校種別	・小学校(小中一貫校、小中高一貫校 含む) ・中学校 ・高校(定時制、高等専門学校、中高一貫校 含む)
回答期間	2009年9月～2010年4月

【グラフ1】

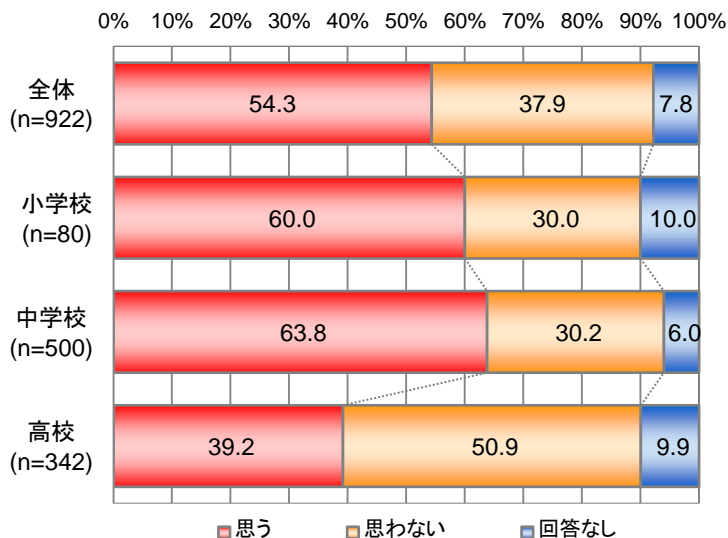
Q:コンタクトレンズ装用の低年齢化が進んでいると思いますか？



Q:コンタクトレンズを装用している女子は“メガネの見た目”にこだわっていると思いますか？



Q:コンタクトレンズを装用している男子は“スポーツ”が主な理由で装用していると思いますか？



【コメント1/低年齢化】

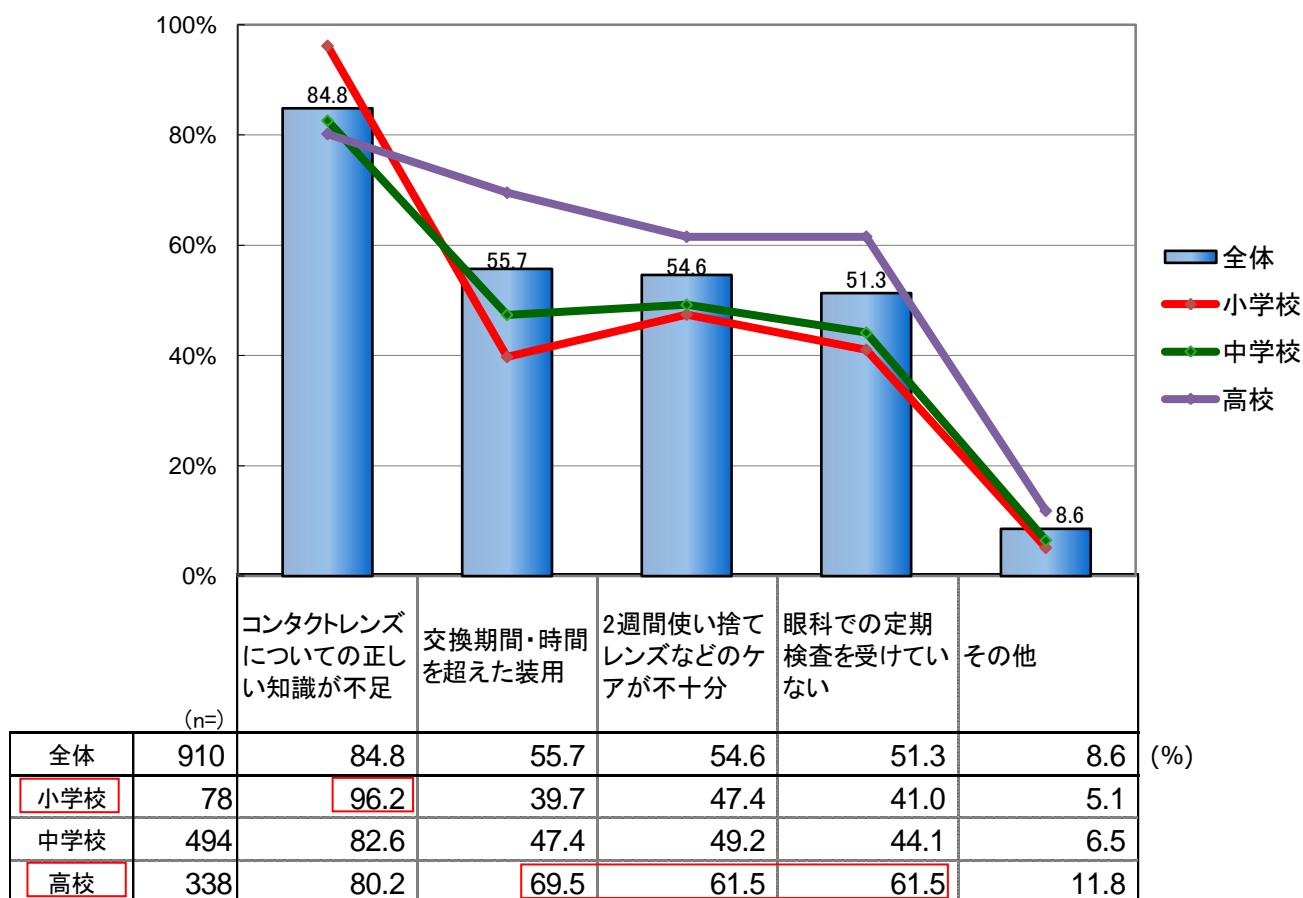
小学生高学年にも D 判定(視力 0.3 未満)と視力低下の進んでいる子が多くなっており、視力の矯正や生活についての指導が必要になってきています。	小学校
中学校で部活をするので、小学生でもコンタクトを使用させたいと、6年生の親は思っている方もいます。年々、早い時期からコンタクトを使わせる親もいるので、とても興味のある資料です。	小学校
親の世代がコンタクトを日常に使用しているため、安易に考えているケースが多いように思います。又、親の世代も同様に自分も使用しているため、子供の使用にも抵抗が少ないようです。	小学校
小学校高学年～中学生にかけてコンタクトレンズ使用者が増えていると感じます。	中学校

【コメント1/見た目、スポーツ】

男女ともにコンタクトレンズを使用する理由として スポーツを十分にしたい という生徒が多いと思います。メガネによるスポーツ時のケガもあるので、そのような面からは、正しく使用できればよいと考えます。	中学校
中学生では、 部活をきっかけにコンタクトデビュー することが多いように思います。	中学校
スポーツなどでは、メガネよりはコンタクトレンズの方が安全面や距離感などを考えると使用するのはいいと思いますが、目の調子が悪く、コンタクトが装着しにくい時でも 見た目を重視 するため、無理に装着しています。	中学校
男子でもおしゃれを気にする 子もいるし、女子でもスポーツやりたいからコンタクトレンズを選ぶこともある。	高校

【グラフ2】

Q:コンタクトレンズのトラブルの原因についてどのようにお考えですか？



【コメント2/トラブルの原因】

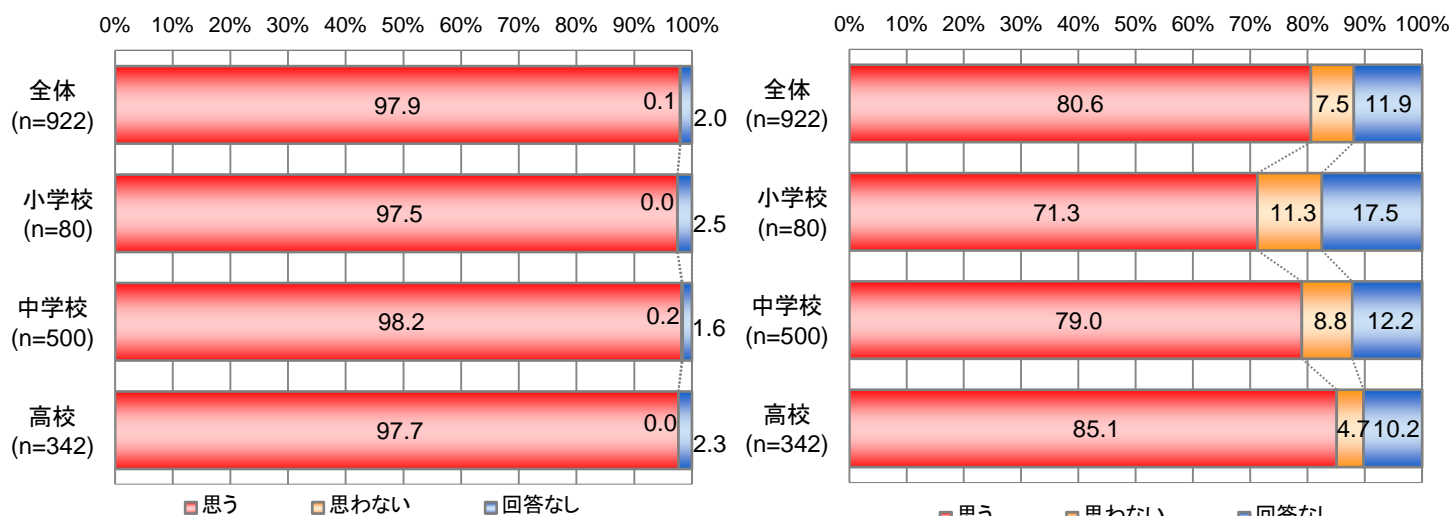
保健室にコンタクトのトラブルで訪れる生徒が多い。 基本的なこと(手洗い、装用時間、管理等)について、理解していない 生徒も多い。	中学校
正しい知識がないまま使用しているため、トラブルを訴える生徒も増えてきました。	中学校
コンタクトレンズのトラブルで保健室来室する生徒は往々にしてあります。コンタクトを外した後、 容器(保存用)を持っていない もの、又、 メガネを持っていない 者があり、外した後、授業を受けるのに見えない…という場合があります。	中学校
コンタクトレンズのみで、 メガネを持っていなかったり 、持っても昔の物で、 度数があっていない ものであったりと、メガネを用意していない生徒も少なくない。	中学校
眼科で定期検査を受けずにネットでレンズを購入したり、交換の時期を過ぎてもそのまま使用しているなど、 不適切な使い方 をしている生徒がいる。	高校

高校生は、正しいコンタクトの取り扱いなども理解していないまま、インターネットやディスカウントショップ等で、おしゃれの為にコンタクトに手を出している気がします。	高校
カラーコンタクトを装着している生徒が確実に増えている。視力補正用を使用していない生徒が、一度も眼科医の指導を受けないまま使用していることに危険性を日々感じている。	高校
問題なのはカラーコンタクトレンズの乱用。視力矯正のためでなくおしゃれのために視力の低くない者が普段使いをしている。視力矯正のコンタクトをしている者の中にはカラコンとの二枚重ねをする者もいる。コンタクトは視力矯正のために正しい知識を持って注意深く取り扱うものだと啓発する必要性を強く感じている。	高校

【グラフ3】

Q: 最初のコンタクトレンズ装用時に“正しい知識”を持つことが重要だと思いますか？

Q: “正しい知識”を持てば、コンタクトレンズを使うことには賛成ですか？



【コメント3/啓発の必要性】

正しい知識を持って行動できれば、コンタクトレンズを使うことには反対しないが、実際は、レンズケアが不十分だったり、交換期間、時間を越えた装用によって眼のトラブルが多いように思う。コンタクトを使い出す前や、使用したばかりの時にしっかり指導し、自分できちんと管理できることが第一条件だと思われる。	小学校
コンタクトレンズを使用する最初は、もちろんみな「正しい知識」や「正しい使用方法」「メリット・デメリット」を考え情報を得ると思う。しかし、私は一番慣れてきた時に、このような情報、知識を再確認することが大切だと思う。	小学校
小学生でもコンタクトを使用している児童がふえてきている。まだ、多少は保護者の管理下にあるが、保護者が正しい知識を持っているか不安もある。	小学校
子ども・親、双方に正しい知識を持ってもらいたと思います。	小学校
正しい知識を持ち、「必要な時にのみ、使用する」「レンズのケアをしっかりとる」「トラブルがあった時のため、常時、メガネやケア用品を持ち歩く」などがきちんとできればコンタクトレンズ使用はよいことだと思う。(メガネより見えやすいし便利のため)	中学校
安易に用いている様子がある。使用にあたって、最初にきちんとした知識をもつことが大事で、定期検査も眼科で必ず受けてほしい。(不用意な使用でのトラブルがある)	中学校
正しい知識をきちんと身につけさせ、生徒たちの眼の健康を守りたい。	中学校
知識があっても、きちんと管理できない生徒が居るので、低年齢や、性格によっては、保護者がしっかり管理する必要がある。	中学校
初めは、眼科医できちんと処方してもらったが、次からは、定期検査を省略する生徒が多く、気になっていた。また、装着したまま寝てしまったなど、トラブル発生を訴えての保健室来客もいるので、正しい知識を指導したいと思う。	高校
「コンタクトレンズを使う前にまず手を洗うこと」、最も基本的なことなのに言われないと気付かない生徒が多く、気になっていました。家庭と連携して指導していきたいと思っています。	高校